

## 琵琶湖への提案 - その1 「外来魚駆除イカダの設置」

琵琶湖を戻す会

### < 背景 >

2003年4月の滋賀県琵琶湖のレジャー利用の適正化に関する条例施行に伴い、滋賀県によって琵琶湖全周58ヶ所に外来魚回収ボックスやいけす が設置され、さらに利用状況を見ながら幾度となく増設や設置場所の見直し等をされた結果、これらは概ね一般利用者にも定着してきました。今回の提案ではこれらにさらに付加価値を付け、周囲の外来魚を集めてそこで釣りも楽しみながら外来魚を回収しようという方法を模索してみました。

2005年1月現在。琵琶湖を戻す会のHPでも詳細を案内しています。( <http://homepage2.nifty.com/mugituku/col lection/col lection.html> )

### < 概略 >

ブラックバスやブルーギルは水中の障害物や物陰の周辺に留まる習性があり、琵琶湖においても単調な沿岸域ではエリ（定置網）の周囲や繫留した船の下などでこれらの外来魚が集まっている様子を見ることができます。そこでここでは外来魚のこのような習性を利用して、単調化してしまった南湖の湖岸に魚礁を沈めその上に外来魚専用イカダを設置して、イカダに乗って集まった外来魚を効率的に釣り上げる仕組みづくりを提案いたします。

### < 構造 >

イカダは後々の移動や撤去を考慮できる限り木製とし、上面は「口」の字型にして中央には釣った魚を生きのまま収容できるようにいけすを設置します。また上板は平らにしていけすの周囲で座って釣りができる広さを確保します。設置は常設とするものの琵琶湖の水位変動を考慮して固定設置とせず、アンカー等で湖底に繫留し、岸からイカダへは栈橋を渡して行き来できるようにします。

### < 効果 >

今回の提案では以下のような効果が期待できます。

**効率的な捕獲：**単調な湖岸に大きな「日陰付きの構造物」を設置することで周辺水域からの外来魚の集魚効果が期待でき、効率的かつ継続的な捕獲が可能となる。

**定期的な大量捕獲：**魚礁の構造を工夫することで、そこに集まった外来魚を引き網などで定期的に一網打尽にすることができる。またそうすることでスレて釣れなくなった魚の入れ替えにもなる。

**レジャーの創造：**海釣りには浮かべたイカダの上から1m前後の柔らかい竿でチヌ（クロダイ）を狙う「筏釣り」というジャンルがあり、人の手と魚がダイレクトにやり取りする感覚が魅力となって根強い人気を得ているが、琵琶湖南湖に多い10cm前後のブルーギルであっても魚とのやり取りの魅力を堪能できることから、ここでも筏釣りスタイルを取り入れレジャー性を持たせることで、単調化した南湖の湖岸公園に新たなレジャーを創り出せる。

**資源再利用：**イカダを間伐材で作リ、フロートを使用済みペットボトルで作るなど、素材を吟味することで資源再利用の場としての側面も期待できる。

**地域参加：**イカダでの指導・監視役として釣り人や漁業経験者を中心とした地元の方々に担当いただくことで外来魚駆除活動に対する地元の理解を深めることができる。

**情報発信：**琵琶湖でのこの試みの結果が同じく外来魚問題を抱える日本中の湖岸が単調化している多くの水域での駆除活動に生かすことができる。

以上